

百物語

八

遠 13  
1895  
8





3  
1835  
8

近世百物語卷之八目錄

陸田庫

物王之現罰

夷船來近漢

凶父殺孝子

樓上看罔像

神龜怒降電

童女遺諫書

鬼欲贖為價











海に出るに國田官系画名の居る港に渡りて事あり

あぐは港の福角を信じてともおのれが村をいふが

らるるがからぬしひありやわが舟の書りし事あり

考初来は港

天政九年五月十日相州海産島より西へ渡りて

彼處なる所の名を身にお記しおちの聲きき駿ごころが

あぐは浦の人の教を杉本肥後とて檢使を遣はしるの

由を尋ねし事ありカ國の記して此の港へ入りては

中へ依り浦の港にからせ番船多し者事ふはしる

事て江戸の港に浦を多し日及外紀をたてし

治る海に廻りては浦の舟に記したるおしる

出まありしは縁に船を揚りて程すく海帆せしる

船毛多く船中浪を物辨茶色船のげ紅なるあり

西側あり相なり船生し船を多し西より折る

事ありかるとし鼻にありのちのちのちのちのち

事あり重浪あり船子に船子多しとてし

事あり重浪あり船子に船子多しとてし



いふは子の書一巻ありてはるるなり

こんど海から渡り書入れたるものにして唐人の書なり

おちが團に書かれたるものにしてはるるなり

まじりしものにしてはるるなり

りるものにして流行するものにしてはるるなり

書ありしものにしてはるるなり

の志ありしものにしてはるるなり

團を畫ししものにしてはるるなり

戦後を寫りしものにしてはるるなり

書ありしものにしてはるるなり

お對するものにしてはるるなり

お歳の日にしてはるるなり

殆どしるものにしてはるるなり

の病ありしものにしてはるるなり

店の日にしてはるるなり

おとすものにしてはるるなり



父殺孝子

長政七の年の江戸より長州府の古くは長門守の  
とあるありし子に父の継母を害するに父の御  
父を害するに父を害するに父の御母を害するに父の御  
年々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
之月まきあつてもおろそかにおぼれ給ふ御母の御  
ありておぼれ給ふ御母を害するに父の御母を害するに父の御  
御夕可おぼれ給ふ御母を害するに父の御母を害するに父の御

孝子とて継母を害するに父の御母を害するに父の御  
十の年おぼれ給ふ御母を害するに父の御母を害するに父の御  
とあるありし子に父の継母を害するに父の御母を害するに父の御  
ちやんぱつとて父を害するに父の御母を害するに父の御  
おぼれ給ふ御母を害するに父の御母を害するに父の御  
まよふとて父の御母を害するに父の御母を害するに父の御  
あるに父の御母を害するに父の御母を害するに父の御  
身おぼれ給ふ御母を害するに父の御母を害するに父の御







陽の南をくぐりて北の海をのぼりて山を越えしむる  
夫婦の事ありて知らずして山を越えしむる  
もなき事ありし時をいふ方しきまのついでに  
いふにや夫婦の事ありて知らずして山を越えしむる  
やのこころにぞしむるや夫婦の事ありて知らずして  
いふにや夫婦の事ありて知らずして山を越えしむる  
河津の事ありて知らずして山を越えしむる  
ちかづきし事ありて知らずして山を越えしむる

橋上肴画像

房州橋の下に仲を食す事ありて知らずして山を越えしむる



川の二階の海をさへ海をふりし幽霊のまゝ毎  
年二月の六日の夜にせしむる由とて新形を造り  
此のまゝありしをあらわししはしるの海より流石に沈  
着を指しおちりしるはしるの仲を守り節をたつ  
形ある所中より流して居るはしるの女はあてはしるを  
たつたよと云ふ形又何の幽霊のまゝに目をあてしる  
をたつたよと云ふはしるのまゝにたつたよと云ふ  
と云ふはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに  
たつたよと云ふはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに

ひらねのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに  
たつたよと云ふはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに  
たつたよと云ふはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに  
たつたよと云ふはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに  
たつたよと云ふはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに  
たつたよと云ふはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに

神産怒降電

上州以誠領前橋村に宮守神といふ神あり  
其の流は猪のまゝに流ししるはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに  
たつたよと云ふはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに  
たつたよと云ふはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに  
たつたよと云ふはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに  
たつたよと云ふはしるのまゝにたつたよと云ふはしるのまゝに



おのる土俗を詠言とて長教と毎多言  
カハ祭礼とて別當福居枝祈禱之類のり  
早魘の年まは神雨乞ふが極て靈驗あり  
と云ふ承子年初多りぞうが此村は回轉なり  
あぐ法よて雨乞ふとてあぐとて一は  
村邊に果とてゆ族の知れぬとてか新村とあり  
日多る月には村と有雨乞ふおぢ人 鐘を敲  
そあきりしは詠言とあり物り初多しとありが

あまや晴天あまかきとてう 天地雲を初山は  
水あり枝祈禱を無物りは祭を破りしと上方電ふ  
日その電のちのきとて月方とて日とてあぐとて  
そあきりしとてあまの時とてあぐとてあぐとて  
あぐとてあぐとてあぐとてあぐとてあぐとて  
あぐとてあぐとてあぐとてあぐとてあぐとて  
あぐとてあぐとてあぐとてあぐとてあぐとて  
あぐとてあぐとてあぐとてあぐとてあぐとて  
あぐとてあぐとてあぐとてあぐとてあぐとて  
あぐとてあぐとてあぐとてあぐとてあぐとて















またいざとて新々会考は作あるなり又道山の内  
好の事あるが如く一たび終り病もするべしとて例の考あふ  
よとたひくちれりれを例の考あふ例の考あふ  
ゆきていざとて新々会考は作あるなり又道山の  
中碑をいざとて新々会考は作あるなり又道山の  
一歳の考あふ例の考あふ例の考あふ例の考あふ  
るいざとて新々会考は作あるなり又道山の  
の中心にいざとて新々会考は作あるなり又道山の

冠山感概の作り家信福報終あふと事流を  
書ふとてその事いざとて新々会考は作あるなり又道山の  
ありいざとて新々会考は作あるなり又道山の

鬼物贖甘鳥價

増山雪江 海防 范地中をいざとて新々会考は作あるなり又道山の  
とて新々会考は作あるなり又道山の  
終ん是悟ありいざとて新々会考は作あるなり又道山の  
おとて新々会考は作あるなり又道山の















五圃をもちびわがむづ持師とある智恵持師て  
とやうふとある一之持のほは作れどいふと  
目録ありて昔ひりしが持もかべとぞ此持のやう  
白濁よりやうとある

持枝の持

下谷を河ふ徳やう山勢持枝の以徳の末ふ水の出こ  
れを経て徳徳一徳の持師のこして徳徳の出ます  
は言ひ人まふ山六山六及ぶと持師の

智恵のちんまは言ひ二目八目のさか二部のよ  
者か心目の持師のこしてまふ持師のこして  
まふのりてまふのえおま持師のこしてまふ  
あり山勢持枝のぬま茶師のこして酒と茶  
茶をまふていふて徳徳のこしてまふ  
まふのりて目このまのま名取ありてまふ  
まふのりてまふのまのま名取ありてまふ  
まふのりてまふのまのま名取ありてまふ  
まふのりてまふのまのま名取ありてまふ







